

宇高 恵子 教授

高知大学医学部免疫学教室

抗腫瘍免疫における 抗原提示

1月20日 (金) 17:00~18:30

疾患ゲノム研究センター1階
交流ホール

抗腫瘍免疫は、究極の自己・非自己識別を要する。腫瘍抗原に対する免疫応答は、本来自己の成分に対する応答でありながら、非自己に対する応答であるごとく攻撃の対象とする必要があり、それをいかに攻撃的に活性化するかという工夫をする必要がある。一方で、まもるべき自己成分に対する攻撃をいかに避けるか、を常に意識する必要がある。また、生体内での抗腫瘍免疫をみると、個々のT細胞の抗原認識の他に、効果的な抗腫瘍免疫の惹起には、抗原提示細胞の活性化、そして、抗原提示細胞・T細胞亜集団・標的細胞の「出会いの場」が必要である。すなわち、抗腫瘍免疫は「反応の場」を提供する治療と言っても過言ではない。

本特別講義では、宇高博士が先駆的に進めてこられた、悪性腫瘍に対する免疫療法の開発過程を追いつつ、① 腫瘍特異的キラーT細胞の誘導、② キラーT細胞の細胞傷害活性を高める工夫、③ 腫瘍特異的キラーT細胞を腫瘍組織へ動員する工夫、そして、④ 免疫寛容に傾いた腫瘍特異的ヘルパーT細胞を活性化する工夫、について紹介していただく。

抗腫瘍免疫に高い見識をもつ宇高博士の講演を伺う良い機会です。多数のご来聴をお待ちしております。なお、本講義は大学院特別講義を兼ねます。

問合先:疾患ゲノム研究センター生命システム形成分野(大学院医科学教育部免疫系発生学)
高浜洋介 (x9452, takahama@genome.tokushima-u.ac.jp)